

大草谷津田いきものの里 自然観察会

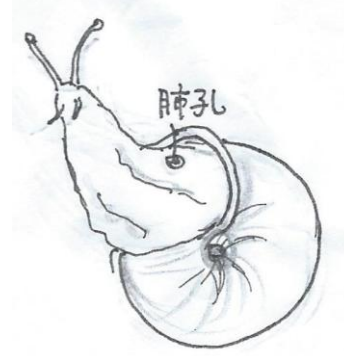
でんでんむしむしカタツムリ

太田慶子（千葉市）

日 時：2014年6月15日（日）10：30～12：00 天候：晴天

参加者：20名（大人13名、子ども7名）

担当指導員：太田慶子・藤田英忠



木曜までは雨続きだったのに、3日続きのからりとした晴天。

でもカタツムリはいるだろうと思っていたのに、朝の下見時にいない！

湿った木の根元や、いつもいる木の上の方などにもいなくて、やっとヤツデの葉裏に成体も何匹か見つけほっとした（今年生まれの5mmくらいのは入り口近くのヤツデの葉裏にいた）。

はじめに用意しておいた、ミスジマイマイ（巻いた殻を置いて右に口がある）・ヒダイマキマイマイ・ウスカワマイマイ（殻の高さがあり小さい）を見てもらい、3種は違うと。また、イラストでも簡単にカタツムリについて話す。雌雄同体。2本の長い角の先に光を感じる程度の目がついていて、短い角は匂いを感じる。耳はないので、大きな声を出しても驚かない。食べ物で糞の色が違くと、人參色の糞を見せたり・・・カタツムリに剣山とナイフの刃の上を歩かせるという<遊び>もさせる。粘液（這った跡がつく）と腹足で包み込むようにして歩くので、全く平気（参加者に、ええっ、大丈夫？と思わせる）。また、カタツムリは肺呼吸なので・・・とカタツムリを手に取り裏返して、呼吸孔（肺孔）が開いたり閉じたりするのを見てもらった後、少し水を入れたコップにカタツムリを入れると這い上がる（逃げようとする）のを見てもらった。

説明後、森の中を歩き、今年生まれの小さなカタツムリ（ニッポンマイマイとミスジマイマイ）、大きな成体と中くらいのまだ若いカタツムリ（口が反り返っていない）がヤツデの葉裏にいるのを見つけてもらう。

この日は草刈が行われており、ヤブキリとヒメギスが逃げてきたのを子ども達が捕まえたり、コクワガタの♀を捕まえたりした子もいたり。

谷津田に着くと、田んぼには足の生えているのや、まだ小さいオタマジャクシが沢山いたので、ケースに捕って見てもらった。アマガエルとシュレーゲルアオガエルの子。また、今年生まれのアカガエルの2cmくらいのを捕まえた子に、「これは絶滅危惧種なんですよ」と話す。また、カナヘビを捕まえて喜んでいたら、持ち帰りはできないという残念そう・・・。

最後に、田んぼのオオタニシ（タニシはカタツムリと違って蓋があることを参加者の中国人の方は知っていた）の大きい（雌だろうと）を捕って（タニシはカタツムリと違い雌雄がある）、可哀相だが、割って小さな子どもを出した。カタツムリは卵で産まれるが、タニシは殻の中で孵る卵胎生だということを知ってもらったのだ。

参加者に子の観察会をネットで知ったという中国人グループがいて、千葉市の中心から遠くないのに、空気のいい気持ちのよいところがあるなんて・・・と話された。（日中関係の陰悪さなど関係なし）。知らなかった生き物の生態を教えてもらってよかったという感想。また、今回はカタツムリの小さな子どもや、昆虫の翅の短い幼体、オタマジャクシ（カエルの子）など、いろいろな子どもが見られてよかったという声があり、本当にそうだと思う。